

権利擁護／虐待防止

事例検討編②

①「明らかな虐待行為」と「グレーゾーンな行為」

この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、「虐待行為とはどういうものであるのか」について考える入り口として活用していただきたい。

難易度はそれほど高くはないが、しっかり考えていくことが大切である。

事例(ある職員Aさんの声)

Aさんはパートとして週に4日特別養護老人ホームで働くことになりました。主に認知症の人が入居しているフロアで、入浴介助と昼食の食事介助が主な業務です。このフロアでは、新卒の若いスタッフと年配のベテランのスタッフが半々くらいの割合で働いています。

食堂で利用者の食事介助をしました。その時にこちらを向いて食事をしている車イスのBさんがいました。Bさんの斜め前にはベテランスタッフのCさんがBさんの様子も見ながら、他の利用者の食事介護をしています。Bさんは自力摂取で食事をしていました。Bさんは食堂の壁を背にして座っています。よく見てみると、Bさんのすぐ後ろに壁があるように感じました。

近くの新人スタッフのDさんに尋ねると、「Bさんはすぐに車イスから立ち上がろうとするので、テーブルで立ち上がれないように押さえているんです。前に車イスから立ち上がろうとして転倒したことがあって、家族からは立ち上がれないようにしてくださいと頼まれています」ということでした。それで、車イスで後ろに下がろうとしてもすぐに壁にぶつかって動けないようにしてあるんだと理解できました。

事例（続き）

居室ではどうしているのかDさんに尋ねると、「うん、Bさんの部屋はナースセンターの真向かいの部屋なんですけど、すぐに動いたかどうかがわかるように掛け布団の足元やくつに鈴を付けているんです。鈴の音が聞こえたら、大急ぎでBさんの部屋に向かいます。本当はセンサーマットか何かがあればいいんだけど、今は他の人に使われちゃっているので、鈴で対応しています。

Bさんが動こうとしたようです。ベテランスタッフのCさんの「ちょっと待ってて、まだこっちのご飯が終わってないから。もうちょっとで終わるから、それまで待ってて。終わったら、テーブルをどかしてあげるから。待っててって。だから、終わったらどかしてあげるからって言うてるでしょ！」という大きな声が聞こえてきました。

個人ワーク(10分)

職員Cさんはどのような虐待をしたと
思いますか？

職員Cさんがしたと思われる虐待行為について、整理しましょう。

1)明らかに虐待であると判断できる
行為は何だと思いますか？

2) 虐待であるかどうか判断に迷う
「グレイゾーン」の行為(「不適切なケア」)は何だと思えますか？

グループワーク(20分)

3)この事例から何が問題なのか話し合ってみましょう。

個人ワーク(10分)

4) ワークシートに「虐待行為」と「グレーゾーン」に分けて記入しましょう

この教材を終えるにあたって

この研修には「正解」はありません。「虐待行為とはどういうものなのか」について考えてもらうことが目的だからです。

人によってとらえ方が違うことも理解できたらこの研修は成功です。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター
理事長 五十嵐教行